

特集

「川崎市・シェフィールド市 友好都市提携20周年を記念して」

Special Issue

昨年11月、阿部市長が、友好都市確認書調印式に出席するため、シェフィールド市を訪問。これに合わせて、川崎市国際交流協会では「川崎市民交流団」を結成。11月7日～14日にかけて、シェフィールド市を中心に文化交流を深めました。また、かわさき音楽交流協会もシェフィールド市を訪問しました。



▲「カトラーズ・ホール」にてナイフや銀製品についての説明を聞く団員たち



■友好都市提携20周年を迎えて 川崎市長 阿部孝夫

本市とシェフィールド市は、2010年に友好都市提携20周年を迎えました。両市の交流は、1989年に日本研究で名高いシェフィールド大学日本研究所の学生達が川崎市内で研修を行なったことをきっかけに始まり、教育や行政分野を中心に友情を深めてきました。

昨年11月には私も現地を訪問し、アラン・ロウ名誉市長と引き続き多彩な分野で交流を深めていくことを確認するとともに、シェフィールド大学東アジア研究所で、「本市の魅力」について講演を行なってきました。シェフィールド市は、近年の都市再開発に

よる新しい街並みの中に中世からの歴史ある建物が残る、新旧の調和が取れた美しい街です。産業革命発祥の地として知られ、鉄鋼業の発展による公害に苦しみました。本市と同じく公害を克服し、先端産業や文化・芸術のまちに生まれ変わりました。

羽田＝ロンドン便が本年2月から就航し、両市の距離はぐっと縮まりました。ミュゼザ川崎シンフォニーホールで開催されるコンサートや写真展を通して、より多くの市民の皆様がシェフィールドの魅力を感じていただければ幸いです。



▲名誉市長表敬

「文化交流に参加して」 NPO法人さえの会代表・声楽家 笹子 まさえ

メゾ・ソプラノの声楽家として、20年以上様々なジャンルの曲を歌ってきましたが、今回は、「日本の文化を伝える」という重要な使命を負って、期待と

不安の中での渡英となりました。琴・尺八・日本舞踊・歌、総勢15名。「お江戸日本橋」「さくらさくら」等、すべて日本の歌を用意していったのですが、メインステージの「両市長による調印式」では「蛍の光」をリクエストされましたので精一杯歌

「学校」「病院」など様々な場所で演奏させていただき、「植物園」では、シェフィールド大学に交換留学生として学んでいる日本人の学生さんも見えました。全員が着物姿で演奏しているので、とても華やかで、すぐに人だかりになりました。通りすがりの方々や、たまたま見学に来た小学生達と、一つの大きな輪になって「花笠音頭」等を踊り、とても楽しい文化交流ができました。貴重な体験をさせていただき、感謝しております。



▲交流風景



▲琴の演奏風景

「川崎市民交流団 英国シェフィールド市を訪れる」

晩秋の2010年11月に、川崎市民交流団20名がシェフィールド市を訪問しました。まず、1638年建立の歴史ある建物「カトラーズ・ホール」にて歓迎を受け、貴重な調度品や銀製品を見学し、次に、タウン・ホール応接室にアラン・ロウ名誉市長を表敬訪問しました。名誉市長はとても気さくな方で、川崎市出身の栗谷嶺紅先生作工芸盆栽「五葉松」(注P7:下段参照)を贈呈したところ、とても喜んでいただきました。その後、阿部市長はじめ、音楽交流協会の方達と共に参加した友好都市確認書調印式は、終始和やかな雰囲気でした。翌日はシェフィールド大学やキングエドワード7世校を訪問し、日本のお菓子や折り紙等を披露し、英語・日本語・ポディランゲージを交えながら交流を楽しみ、有意義なひとときを過ごしました。秋色の木々から木漏れ日が降りそそぐ穏やかな街でした。



▲シェフィールド市庁舎

▶市民交流団の団長と副団長を務めた小島さんと奥宮さんに伺いました。

Q:市民交流団の旅に参加しようと思った動機は?

小島さん: 両市は重工業都市からハイテク産業都市へと変身して、市の勢いを取り戻しています。また、芸術やスポーツにも力を入れています。とても似ている東と西の都市を見てみたいと思いました。

奥宮さん: 物づくりを大切にしながら、環境対策にも力を入れている緑の多いシェフィールドの旅はとても魅力的でした。川崎市と市民とがコラボレーションする企画であったので、一市民として参加したいと思いました。また、川崎の魅力も伝えたいという思いもありました。

Q:日本語を学んでいるシェフィールド大学の学生や高校生との交流はいかがでしたか?

小島さん: 学生さんの知識レベルの高さ、日本語力のすばらしさ、取り組む意欲に感心しました。高校生はこれから日本語を

学ぼうとしている方々で、日本に対してとても関心があり、特にアニメについて興味を示し、よく知っていました。

奥宮さん: 学生さんは皆、日本語がとても上手で、日本の歴史と文化をよく勉強していました。ここでも栗谷嶺紅先生の

お話しすると、目を輝かせていたのが印象的でした。

Q:シェフィールド市の印象について

小島さん: 街中の建物が伝統的な煉瓦や石造りで、数百年も経った建物が多く、落ち着いた街並みでした。また、近代的な建物もあり、その融合をうまくやっているなという印象でした。郊外に出たときの緑のすばらしさ、土地がフラットなので、森の広がりがすばらしく牧歌的でした。

奥宮さん: 歴史ある建物が多く、清潔で落ち着いた街という印象でした。「カトラーズ・ホール」は17世紀の歴史ある立派な建物で、ここに貴重な銀製品が展示されており、大広間に「わたしたちはよいものを作り続けていく」という趣旨の文字が刻まれていたのが印象的でした。物づくりの精神が脈々と受け継がれており、川崎市と相通じるものを感じました。



▲キングエドワード7世校での高校生との交流

工芸盆栽「白梅」を贈呈したのですが、彼らは盆栽のこともよく知っており、話が弾みました。高校生はかわいらしい素直な方達ばかりでお箸の使い方や折り紙の折り方を一生懸命教わっていました。川崎について

(この話の内容は平成22年11月29日に、かわさきFMで放送した内容を編集したものです。)

▶参加者から旅の感想を一言

- 年代の違う方達と一緒に食事しながらお話ができ、とにかく参加してよかった!
- セレモニーでは旅行着から和服やロングドレスに変身。皆さんすてきでした。
- カトラーズ(刃物師)を誇りにしていたね。
- さすが物づくりを大事にしている街! 150年前の建物を大事に使っていました。

- シェフィールド大学の学生やキングエドワード7世校の高校生の日本通にびっくりでした。彼らが来日したときがっかりしないように私たちががんばらなくてはと思いました。
- 学生さん達にラーメンスナックや金平糖を差し上げたら大喜び。味を知っていたんですね。

- シェフィールドは学生の街という印象です。
- 市民交流団のメンバーは30代~70代まで幅広く、職業も経歴も異なりますが、友好都市で市民と交流したい、川崎を紹介したいと前向きに積極的に行動する方ばかりでした。互いに温かい言葉をかけ合い、楽しい思い出がいっぱいの旅行になりました。

(編集ボランティア 青柳尚子・福地直子)

川崎市・英国シェフィールド市友好都市交流20周年記念コンサート 英国音楽の夕べ

「戴冠式」&「惑星」

2011年3月14日(月) 19:00開演 (18:30開場) ・モーツァルト/ピアノ協奏曲第26番ニ長調「戴冠式」K.537
・ホルスト/組曲「惑星」作品32

ミュゼザ川崎シンフォニーホール (JR川崎駅西口直結) **S ¥4,000 A ¥3,000 B ¥2,000** 全席指定

●指揮:大友 直人 ●ピアノ:小川 典子 ●管弦楽:東京交響楽団

主催:川崎市 財団法人東京交響楽団
後援:「音楽のまち・かわさき」推進協議会
財団法人川崎市国際交流協会
協力:ミュゼザ川崎シンフォニーホール
(川崎市文化財団グループ)

申込方法 申込先
Tokyo Symphony チケットセンター 電話044-520-1511
(平日10:00~18:00 土曜日10:00~14:00)
ミュゼザ川崎シンフォニーホール チケットセンター 電話044-520-0200
(電話受付10:00~18:00,4階チケットカウンター10:00~19:00)